



# 十二町っ子だより

学校だより 第6号  
令和8年10月1日  
氷見市立十二町小学校

## 爽やかな秋の到来



爽やかな秋風が道端のコスモスを揺らすころとなりました。教室からは「まっかな秋」の歌声が聞こえてきます。ランランタイムに元気よくグラウンドを走る子供たちの姿からは「スポーツの秋」の到来を感じました。

子供たちは、今月の17日に行われる学習発表会に向けて練習に取り組んでいます。劇や運動等、それぞれの学年が工夫を凝らし、自分たちも観客の方々も笑顔になれるような演技を目指しています。十二町っ子一人一人がもっているよさが輝く場となることを期待しています。

## 避難訓練～地震・土砂災害



9月7日の避難訓練では、地震と土砂災害を組み合わせた訓練を行いました。まず、地震の訓練では、机の下で頭を守り、揺れが収まった後はグラウンドに避難しました。その後、土砂災害警戒情報が出されたという想定で、校舎の2階へ垂直避難しました。子供たちは「おさない、かけない、しゃべらない、もどらない」の約束を守って、安全に避難することができました。地震の後は津波や火災、土砂災害が発生することもあるため、1次避難で油断することなく、指示や放送を聞いて2次避難に備えるように伝えました。8月の豪雨によって、災害の恐ろしさを実感した子供たち。これからも、自分の命を自分で守ろうとする意識を高めていきます。

## 高齢者宅訪問



9月18日に社会福祉協議会と連携し、高齢者宅訪問を行いました。この日のために子供たちは、地域の岸田木材さんの木材を使ったコースターや手紙を用意しました。出発式では付き添っていただく民生委員や主任児童委員の方等にコースターを贈りました。その後、各地区の高齢者宅へ訪問し、プレゼントを渡したり、会話を楽しんだりしました。これからも、地域との関わりを通して、思いやりの心を育てていきたいと思っています。



## 十二町親子自然アート展

「十二町親子自然アート展」には、十二町の自然や文化を題材とした力作が揃いました。オニバス、イタセンパラ、獅子舞、羊牧場等が題材として扱われています。今年は立体作品も多く見られました。題材を話し合い、制作に取り組むことは、親子で触れ合いながら地域のよさを感じる機会となったのではないのでしょうか。作品制作にご協力いただいた保護者の皆さん、審査や作品展示をしてくださったPTA文化教養委員会の皆さん、どうもありがとうございました。



## 稲刈りにチャレンジ

9月25日に4年生、5年生、6年生が稲刈りに挑戦しました。

URUKI VILLAGEの水田に田植えを行ったのが5月26日。子供たちにとっては初めての田植え体験でしたが、転ぶ子供も見られず、順調に新大正もちの苗を植え付けました。

あれから4か月。8月の豪雨の影響が心配されましたが、無事に稲刈りを実施することができました。刈り取り方法を聞いた後、子供たちは適量



をつかみながら次々と刈っていきました。秋晴れて暑い日でしたが、汗を光らせながら、一生懸命に取り組む姿が見られました。その後、刈り取った稲を脱穀するためにコンバインまで運びました。みんなで刈り取った稲を何度も運び、残らず脱穀することができました。

今回の体験を通して、手作業の大変さと機械の素晴らしさを実感することができました。このような貴重な体験ができたのも、売木林業さんのご協力のおかげです。作業後には、感想や感謝の言葉を伝えました。

このもち米が11月14日のもちつき大会に使われます。田植え、稲刈り、もちつきという一連の体験を通して、日本文化や地域の素晴らしさ、食の恵みを感じてほしいと思います。



## ふれあいウォークラリー大会



9月27日に「ふれあいウォークラリー大会」が行われました。十二町持続可能な地域づくり推進協議会が主催の地域をあげてのイベントです。子供たちは親子や友達でチームを組み、4kmコース、6kmコースに分かれて歩きました。途中には、十二町地区の自然や歴史に関する問題があり、チームで答えを考え合う姿が見られました。PTA常任役員や保健体育委員会の皆さんは、受付、道路での見守り、採点、健康等に関する〇×クイズの出題等の協力をしてくださいます。

また、十二町赤十字奉仕団の皆さんによる炊き出しも行われ、カレーや味噌汁、焼き芋をいただきました。

地域の方々のおかげで、子供たちは、改めて十二町のよさを感じることができました。今後も、地域に進んで関わり、愛着を深めてほしいと思います。



## 十二町っ子の活動～総合的な学習の時間～

### 1 / 2 成人式 4年生

博物館では、昔のくらしや漁業等について学びました。図書館では図書カードを作ったり、書庫や昔の新聞を見せていただいたりしました。これまで成長を支えた家族に感謝するとともに、郷土への関心を高めてほしいと思います。



### イタセンパラの飼育 5年生

5年生が育てているイタセンパラが産卵可能な大きさに成長しました。メスが産卵管を伸ばしている様子を観察しました。

毎日餌やりを続けている子供たち。今後も学芸員の方のご指導を受けながら飼育と観察を続けます。

